

## 会 議 録

会議の名称	平成26年度 第1回豊中市市有施設有効活用委員会		
開催日時	平成26年(2014年)6月27日(金) 18時30分~20時		
開催場所	豊中市役所第一庁舎 5階 西会議室	公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可
事務局	資産活用部 施設活用推進室	傍聴者数	0人
公開しなかつた理由			
出席者	委員	○市有施設有効活用委員会委員5名 伊丹康二委員、佐野こずえ委員、新藤晴臣委員、廣瀬史朗委員、吉野忠男委員 (五十音順)	
	事務局	○資産活用部 施設活用推進室 福田部長、甫立次長、國司主幹、牛尾副主幹、芦田、次郎坊 ○財務部 財政室 直川理事	
	その他		
議題	1. 前年度の振り返り及び今年度の進め方について 2. 豊中市における市有施設の戦略的配置について 3. その他		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

## 審議等の概要（主な発言要旨）

### 案 件 1

#### 前年度の振り返り及び今年度の進め方について

- ・資料 1-1 前年度の審議経過及び今年度の予定について
- ・資料 1-2 豊中市市有施設有効活用委員会 答申（平成 25 年度）の趣旨及びポイント
- ・資料 1-3 平成 26 年度 豊中市市有施設有効活用委員会の進め方

#### 事務局より資料説明

(委員) 今年度も前年度と同様に、委員会の会議以外に、委員で調査研究する場を設けるのか。

(委員長) その予定である。

(委員) 資料に「10 月に中間答申を提出」とあり、あと一回の委員会だけで提出は無理なのではないかと思っていたが、少し安心した。

(委員) 中間答申でどの程度の内容のものを作るのかを今後議論しなければいけない。

(委員長) 他に意見がなければ、今年度の進め方については事務局の提案通りに行うこととしたい。

### 案 件 2

#### 豊中市における市有施設の戦略的配置について

- ・資料 2 豊中市市有施設有効活用委員会への諮問(平成 26 年度)について

#### 事務局より資料説明

(委員) 戦略的配置の考え方の議論の中で、資料の視点の項目に「機能の柔軟な再編と資産の最大限の有効活用」「新たな地域拠点の創造と施設総量のシェイプアップの具体化」とあるが、数値的見方のようなものなのか、方針を定性的にブレイクダウンしていくのかの方向は考える必要があると思う。また、中間答申でどの程度まで作るのか。事務局からの説明にもあった、現状の施設配置を理解したうえで、制約条件を考え、シナリオに落とししていくことは考え方の流れとしてとして妥当だと思う。

(委員長) 数値や具体的な指標の面はどうなっているのか。

(事務局) 数値であるが、他市の例を見ると、適正な施設総量は、個々の市有施設の劣化診断をしたうえで各施設の将来にわたる改修費用を算出、それらの金額を集計して市有施設全体の改修費用を出し、一方で施設の維持管理に確保可能な財源見通しを立て、その改修費用と確保可能財源の均衡点を施設総量としている。豊中市では劣化診断は来年度に終了する予定なので、今年度の答申では数値自体は委員会には提示できないと思われる。従って、施設総量についての考え方や算出方法を提示いただければと思う。

(委員) ライフサイクルコストと財源という軸において、最大限の有効活用を考えると、

どの組み合わせにすればシナジー効果があるかを考えていく必要があるのか、または組み合わせを考える程度なのかの目標設定を決める必要があると思う。

(委員長) 逆に、考え方の軸の組み方を考えていくのがいいのでは。数値データをそろえると、順番が付けられるので、そこまで議論するのが良いのかという問題もある。劣化診断のデータがまだ出ないというのだが、数値が出ると施設の順番が出てくる。そういう議論に持っていく方が望ましいのか、その根底なところの議論の考え方を重視した方がいいのかを決めないと、これから議論が錯綜する可能性がある。我々の議論にこのような数値が必要なのか。

(事務局) 施設全体の適正な総量が出た場合、総論的には反対されないが、個別の施設の具体化となってくると難しくなる点が課題であると思う。個々の施設名まであげた具体的なものでなくても良いので、絞り込みの考え方を議論していただけるとありがたい。

(委員長) 考え方を議論のベースにするとして、総量という裏付けが必要ということにならないか。

(委員) 低・未利用になっている空間や施設に対して、他の機能や周辺の施設を含めた再編を検討する場合、往々にしてボリュームアップになりがちである。そのため、豊中市が持っている施設全体を長期的視点で見れば、削減割合の設定などの総量規制の目安が欲しい。現段階では具体的な数字は不要だが、目安は必要だと考える。

(委員長) 財源や人口減少は見える問題である。議論の下地にしたほうが良い。

(事務局) 決算統計から出したバランスシート、行政コスト計算書等があるので、資産の総額や負債の総額、大体の減価償却を入れたコストが出ているので見てもらうことができる。財源の数値的なバックボーンとして活用してもらいたい。

(委員長) 財源が精緻化された数字を背景に議論するというにならないのはむしろ良いのではないか。財源だけになると我々の議論が制約的になると思う。数値情報が出たとしても考え方の部分を優先して、我々の議論の流れを作るべきではないか。

(事務局) 決算統計から出したバランスシート、行政コスト計算書等を、補強する材料として、精度には課題がある数字であるが、活用できるか検討してほしい。

(委員長) 今の情報・データでは議論をさらに発展させるのは難しいので、もう少し正確な情報を出すべきではないか、という提言でもいいのではないか。

(事務局) そういう提言が固定資産台帳を整備した時にはこうしたらどうかという点につながればありがたい。

(委員長) 情報をもらった上で検討していきたい。

(委員) 昨年とは違い、具体的なものではなく、総量として考えていく方向でいいのか。それぞれ性格の違うものを一度に扱い、どこまで答申として出せるのか見えない。性格の違う市有施設はある程度大きく分類して考えていくという方法もあるのではないか。

(委員長) 総論として全体を組み立てるときには各論のときよりも具体性のある情報が必要である。まちづくりセンター、老人福祉センターなど各論ではある程度の情報を持っているが、それを踏まえても全体を見るのは難しい。

(事務局) 施設を類型ごとにわけ、利用圏域などから豊中市独自の施設配置を考えても

らいたい。財源の制約を踏まえ、いかに目標に近づくかの戦略、シナリオも審議いただきたい。全部を一括りにして戦略的配置といっても足がかりがなく、無理やり検討してもすでに作っている方針と変わらない一般的なものになる可能性がある。施設の配置パターンは、建築分野の委員がご専門だと思うので、ご助言いただければありがたい。

(委員) 25年度の答申では、ネットワークという考え方で類型化をした。一方、市有施設有効活用計画では総合計画の章ごとに施設を分類していた。後者のように、総合計画のある章の施策に関連する施設を列挙して再編していくのか。あるいは医療・福祉介護・健康などに関する施設をすべて列挙して再編する方法とどちらがいいのか。理解しやすいのは総合計画だとは思いますが、今の時代に合った施設の在り方というのは総合計画に縛られることなく、機能面から類型化してもよい。

(委員長) さらに、機能面を集約し、共通項がどこにあるかも一度整理再編しなおすという方法があるのではないかと。我々がこれまでに検討してきた肝心なことをベースにしていかないと、違うところから入ってくるとおかしくなる。

(委員) 市有施設有効活用計画では総合計画の章ごとに施設を分類している。それを今年度見直すということであれば、総合計画の考え方をベースにするが、直接施設につなげずに、医療健康・子育て支援、知識情報といったキーワードでワンクッションおいてから施設のリンクを行い、医療健康等の関係施設を再編するというように有効活用計画を見直してもいいのではないかと。当初、有効活用計画が総合計画とリンクさせるのは興味深いと思ったが、難しそう。

(委員長) 今回市長からスクラップアンドビルドという具体的な方向性が示されているのでさらにブレイクダウンして議論ができればいいのではないかと。市長のスクラップアンドビルドはすでにイメージや具体的な名前が挙がっているのか。

(事務局) 具体的な施設名は挙がっていない。

(委員長) 具体的にするために我々の意見を参考にしていきたいということなのか。

(委員) 建築業界ではスクラップアンドビルドは古い表現である。これは建物が古くなったときに安易に解体して新築するという意味であり、廃棄物問題の面からもストックアンドフローの時代、すなわち、建物の長寿命化を図り、有効に活用するという時代に入って久しい。

(事務局) 想像であるが、今回市長から示された意味でのスクラップアンドビルドとは機能やサービスを含めた考え方ではないかと。行財政改革の中で新たなサービスを創造するためにはスクラップするサービスもあるという考え方がある。結果的に老朽化等により、ハード面でのスクラップアンドビルドというのもありえるが、基本的には、機能、サービスを含めた意味でと考えている。

(委員長) 本市だけではなく、実際的にスクラップしないといけない段階に来ている施設が多い。そういう施設にも手を入れていくという姿勢があるのではないかと。

(委員) 一様にスクラップアンドビルドという時代は終わっている。もちろん、新築も必要であることに間違いはない。

(委員) 豊中市らしさということに、市民は関心があるのではないかと。他市は縮小の方向である。資料2の視点の中で「新たな地域拠点の創造と施設総量のシェイプア

ップの具体化」とあるようにスクラップばかりではなく逆に新たな地域拠点の創造というのもあった方がいいと思う。縮小ばかりではなく、市民サービスが上がるためにも新たな施設も必要ということも議論できればいい。数値目標については、短時間では出ないとは思いますが、ある程度目安が欲しい。施策として順序付けることはしなくてもよいと思う。

(委員) 今年中に施設総量の面積をどれくらい減らさないと財政的にやっていけないかの数値がでない議論できないということではなく、近い将来具体的な再編を考えるときに数字がないと行政内部で議論できないのではないかと。委員会では具体的な数字が出されたところで具体的な施設をどう動かすかということではないので、詳細なデータがいるわけではない。

(委員長) 具体的な数値が出ると、制約事項になるので、参考程度にすべきではないか。

(委員) イメージとして数値を共有できればいい。

(委員長) ある程度の数値が出るので、我々はそれを踏まえて議論できればよい。

いろんな施設を見学して、機能の結び付けはしてきたが、実体的にできるかまでは踏み込んでいない。資料 2 の一例をみると、そこまで踏み込んでいるようにも見えるがどうか。

(事務局) これは一例であり、中間答申までに、深堀出来なかったところを最終答申までに突き詰めていくという考え方もある。施設間の機能的連携とは地域連携センターをイメージしている。当初は公民館を中心に多目的な施設を目指していたが社会教育法等の制約があり、法律上公民館を多機能にできないので悩んでいる部分もある。今の市有施設有効活用計画は総合計画の切り口で考えているが、都市計画マスタープランというものがあり、区域を 7 つに分けてまちづくりや方向性を示している。抽象的であるが、例えば中部であれば文化施設を集積させるタイプの戦略的配置などをイメージしている。「施設の設置目的、性質、特性に応じた戦略的配置」とは、施設の類型に応じて戦略的配置を考えてもらうことを想定している。

(事務局) 昨年は法律上の学校教育施設、保育施設、老人福祉施設という分け方ではなく、機能で分ける方法で柔軟に考えてもらった。どういう横串のさし方、類型の出し方、機能についての戦略的配置、戦略的配置はどう考えたらよいかと提案してもらえればありがたい。昨年は 4 施設ほど見学してもらったが、年齢に偏りがある施設、ない施設、様々な機能の分類から新たな整理の仕方ができるのでは。機能に新しい横串を入れてほしい。また、豊中の地域性という視点で言うと、同じ中核市の富山市のように広大な面積があるところと、豊中市のようにすべてが市街化区域の都市の戦略的配置は違うはずである。豊中の立地に応じて都市計画マスタープランを見ると西部は準工地帯、北部は千里ニュータウンがある住宅地だということがわかる。豊中市の戦略的配置として、コンパクトシティのような、高齢者を都心に集める市有施設の在り方は合わない。豊中市的な戦略的配置を大きな考え方で作ってもらい、中間答申を出していただければ、市有施設有効活用計画の見直しにも結び付けていけるのではと考えている。

(委員長) 機能を横串でつなげていくというのは我々も考えていきたい。データマイニ

ングという考え方もある。膨大な量のデータを整理していくとキーワードを共通項でくれるものがある。データマイニングはこのテーマには使えるのでは。

(委員) 機能軸を1つの軸ととらえる考え方に加えて、経営学の考えでは事業の定義をどうするか考える際に顧客軸でみていくという考え方がある。シナジー効果や最大限の有効活用を行うと考えると、ある機能とある機能があれば利用者の属性が近いなどといった観点で横串が刺せるのではないか。どういう属性かはデータを見る必要がある。

(事務局) 2次元、3次元で類型をマトリックスにするというイメージか。

(委員長) その軸を支える上で、ポイントは市民である。市民がどこに価値を持っているか。我々は機能というドラスティックな部分を見ているが、市民の方から、市民の価値が見えてくると、コンセプトになるのではないか。

(委員) 二つのパターンが考えられる。例えば子育て世代向けの機能同士を組み合わせる方法もあれば、子育て世代向け機能と老人世代向け機能が合わさった方がよりシナジーが働くなど、機能によって意味づけが変わってくる。利用者属性の組み合わせによって、どのようにしたら効果が高まっていくかを考えたい。

(委員長) 図書館の利用状況を精査した際もヘビーユーザーとライトユーザーがあり、ユーザーといっても幅があるということを知った。同じ利用者でも一元的でないというところに切り口を持っていくと、機能面を通していくことができるのではないか。市民の視点で行うことは重要なポイントである。

(委員) 付加価値のある豊中市を目指すべきである。機能に地域特性を絡め、さらに属性もとなると、かなり方向性が絞られる。データマイニングほどではないが、ある程度の姿が見えてくるのではないか。

(委員長) 姿、像を我々が方向づけて議論して、望ましい形を見つける。必要とする大事なものは、こういう要素があるのではないかというものを示していきたい。

(委員) 複合化の施設で、利用者が足りていないと感じる機能を調査するとその考え方のベースになるのでは。こちら側の思い込みとずれているかもしれない。

(委員長) それは重要である。施設が複合的、機能的で市民のニーズや目的の範囲が見えてくる。また実地調査が必要かもしれない。施設を移動して利用するにはニーズや目的がある。単純に機能を複合化すればいいというものでない。

(委員) 何を複合化すれば効果が高くなるのかが見えていない。

(委員長) 身近なところから議論を始めるのは良いと思う。

(事務局) 早い段階で骨子案を作っておかないと、10月の中間答申には間に合わない。

(委員) 資料2の一例にある「一定の地域に施設を集積させるタイプの戦略的配置」とあるが、さきほどの話の中では都市マスタープランの地区割りのだいたい7か所に分かれるということか。

(事務局) 施設の類型や要素にもよる。例えば中部に文化施設を集めるという意味である。均等化ではない。

(委員) 車社会とはいえ、鉄道という大きな移動資源を活用するならば、駅を中心に必要な機能を考えても良い。他の自治体では、駅と無関係に分散して整備したために、それらの施設へのアクセスを確保するためにコミュニティバスを使用している

ところもある。他自治体はこれから駅の役割と機能を見直さないといけないという議論がある。豊中はどうなのか。

(事務局) 豊中市は交通面で発達しているのでコミュニティバスの需要が少なかった。西部の交通がやや不便といわれている地域でも、実際は生活圏域が尼崎市になっていたりしているようであった。

(委員) 駅を中心とした考え方は豊中市には合わないかもしれないが、豊中市は駅前のスペースにどのような機能があればいいかを考えることは必要だろう。

(事務局) 阪急沿線は高架下利用の可能性がある。例えば、市民情報サロンは豊中駅の改札を出たところにある。

(委員) 駅前にある施設の面積などがわかる資料があれば議論ができる。狭い面積のスペースが分散しているのであれば、大きなスペースは難しいかもしれない。

(委員) 大阪環状線の駅の近くに保育施設が出来ている。働きに出るときに保育施設が駅に近い方が便利という考え方もあるので、駅にどのような機能があれば良いかも考えた方が良い。

(事務局) 他市では、再開発により、子育て支援施設を不便地から駅前に移動したところ、利用者が3倍に増えたということを知った。

(委員長) 通勤途上の利便性は重要である。駅に保育施設を作る事例は他にもある。

(事務局) 豊中市は交通網が発達しているので、駅前に施設を集めるという発想は多分なかった。

(事務局) 駅前に施設を集めることは明確に意識して行っていないと思う。駅前の再開発に公共機能を入れることで、より効果が上がるという発想があったかもしれないが、戦略的な配置ではなかったと思う。

(事務局) そういう必要がなかったかもしれないが、駅前に集めた方がいい機能があるかもしれないし、再編していく中で拠点と言われる中に集約していく方が、今より館数を少なくしても効果的な機能があるかもしれない。現在、各地域に均等になればいけないという概念もある。そういうことも必要な機能もあるが、むしろ今まで考えてこなかった、交通が便利なところではあるが、拠点と言われるところに集約した方が、より少ない資源でたくさんの人の交流が図れ、効果が上がるかもしれない。保育所のように各地域に必要という発想で作ってきた施設を全て駅前というのは極端かもしれない。豊中市は交通が便利なので、歩けるところに一つ欲しいという要望がある。交通網が発達していない地域などは、車生活なのでむしろ都市市街地に1つあれば十分という考え方でいいようだが、豊中市は無理である。組み合わせによって戦略が変わってくるので、組み合わせ方、機能面、利用者の視点、どんな人が利用しているかのマトリックス、地域特性などで、いろんな組み合わせで戦略を提案してもらい、豊中市の強みが生かせるような考え方がこの場で生まれて来ればよい。どこの市も思いついていないような市有施設の戦略が出来上がればありがたい。

(委員長) 我々も幅を持たせて広く考えていきたい。中間答申に向けてさらに検討していきたい。

案件 3  
その他  
案件なし。

以上